



## 今週のトピック – 2015年6月22日

今週のチャートでは、ギリシャの銀行における民間セクターの預金残高の月次での推移と、ギリシャ中央銀行(BoG)のTARGET2を通じた他のユーロ加盟国に対する「債務」残高(ここにおけるプラスは純債務を示します)を表しています。



デビッド・ライリー

パートナー兼クレジット戦略ヘッド

### 【ギリシャの銀行の預金残高】

BoGの直近の発表によると、ギリシャの銀行における預金残高は2015年4月末時点で1,335億ユーロ(うち1,140億ユーロが家計からの預金)となっています。4月末以降、ECBによるギリシャ銀行に向けた緊急流動性支援(ELA)は90億ユーロ拡大されたものの、ギリシャの銀行からの預金引き出しペースは先週以降加速しています。一部報道によれば、先週1週間で30億ユーロの引き出しがありました。これが事実であるとすれば、ギリシャの銀行の預金残高は1,230億ユーロ程度であると見られます。昨年11月にギリシャ国会にて新たな大統領を選出することが出来ず、結果として今年1月に行われた総選挙により急進左派連合(SYRIZA)が政権を獲得することとなる以前には、預金残高は1,640億ユーロでした。

### 【ELAとギリシャのユーロ加盟国への債務】

ECBは6月17日にELAの上限を12億ユーロ引き上げたことと、さらに先週金曜日(6月19日)には18億ユーロ引き上げたとの報道がありました(ECBはELAに関する情報を正式には発表していません)。これにより、ギリシャの銀行は使用可能なELAとしておよそ36億ユーロの余裕を残していると見られ、この額は1週間の預金流出額をわずかに上回る額です。仮に、預金流出に歯止めが掛からなければ、ECBは既に860億ユーロであるとされるELAをさらに大幅に引き上げることを余儀なくされるか、ギリシャの銀行システムの崩壊および資本統制発動を許容するしかないと見られます。BoGの他のユーロ加盟国に対する純債務(ギリシャのTARGET2バランス)は1,080億ユーロ程度であると予想され、これに加えてECBは270億ユーロのギリシャ国債(うち35億ユーロが7月20日に支払期限を迎える)を保有しています。

### 【銀行システムの崩壊と資本統制】

直近のギリシャ関連報道の多くが、ギリシャの債務不履行(デフォルト)に注目した内容で、特にギリシャ政府が6月30日にIMFに対する16億ユーロの債務を返済することが出来るかに焦点が当たっています。しかしながら、6月22日に開かれる緊急首脳サミットの中で少なくともギリシャと債権団との合意に向けた進展が見られない限り、ギリシャの銀行システムの崩壊および資本統制の発動は6月30日を前に起こる可能性のあるイベントであり、注視する必要があります。

図1. ギリシャの銀行からの預金流出は実質的にユーロ加盟国が負担



出所: MacrobondおよびBloombergのデータを基にBluebayが算出;  
2015年6月19日時点